

6年ぶり16回目のシード権を獲得

全日本大学女子駅伝



アンカー三ツ木が3人抜きの快走

福居・上田のダブルエースも力走

第93回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(社)の都駅伝は10月29日、宮城県仙台市で行われた。当日台風の影響で気温は度の寒さ天雨という悪コンディションだったが、アンカー三ツ木桃香(現代政策)は写真の3人抜きの快走もあって時間8分46秒で8位入賞して、6年ぶり16回目のシード権を獲得した。

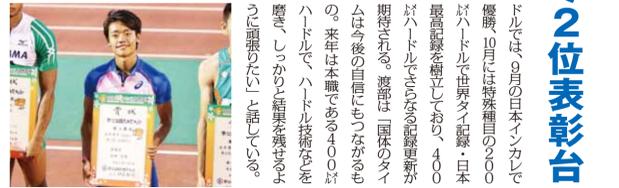
1区はキャプテンの福居紗希(現代政策)が先頭から13秒差の善走で、2区は上田未奈(総務)が区間4位で好走でチームを3位にまで上げて3区の小笠原晴季(経営)も、4区から6区までは2年のオールド・小笠原は順位を7位まで落すも、続く4区の佐光菜々子(医療栄養)がシード権内の7位をキープしたまま、5区は区間3位の走りでも、6区は区間3位の走りでもシード権内の8位でゴールに飛び込んだ。



▲レース後に笑顔を見せる女子駅伝部の選手たち

渡部 400メートルで2位表彰台

10月6日から10日まで、愛媛県松山市の愛媛県総合運動公園競技場で行われた第72回国民体育大会(愛媛国体の陸上競技)で、渡部は明(経営)が成年男子400メートルで5位となり、表彰台に上がった。専門種目の400メートルでは辛運を敗したが、専門外の400メートルで、リオ五輪代表のワルシュ・ジュリアン(東洋大学)に次いで、46秒55で2位となった。渡部は今期、1600メートルの走者としての好走、走者が上がったことかかわっていたが、今回の結果はそれを証明する形になった。



↓下では、9月の日本インカレで優勝、10月には特種目の0.00秒ハートレック世界記録、日本最高記録を樹立し、400メートルでさらなる記録更新が期待される。渡部は「国体のタイムは今後の自信にもつながるもの。来年は本職である400メートルで、ハートレック技術を磨き、しっかりと結果を残さるように頑張りたい」と話している。

「夢をかたちに、2020年の主役たち」

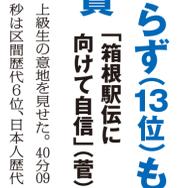
2020年の東京オリンピック・パラリンピック、バドミントン、バスケットボール、水泳、ラグビーを記念して、水田美術師ギャラリーにて10月9日まで、五輪展「夢をかたちに、2020年の主役たち」が開催されている。毎日新聞社の協力で貴重な写真展を、30枚のパネルに展示している。五輪やパラリンピックの歴史、1964年の前回大会で活躍した内外の選手が期待される日本の若きアスリートたちを紹介し、福の城西高校を卒業して米フロリダ大に留学した村上短距離のサニブラウン、ハキム選手や体操の白井三選手、水泳の池江璃花子選手らが登場している。

風邪予防でしっかり応援

次々大切なのが規則正しい生活です。睡眠不足で疲れている、栄養が足りないなどが弱っている状態でウイルスが侵入した際、それらを倒す抗体を十分につくることができません。規則正しい生活、バランスの良い食事を心がけましょう。また、水分補給も重要です。夏と違い冬は意識的に水分を摂ろうとする方が少なく、飲むものといった温かいコーヒーや紅茶などが多いと思います。しかしコーヒーなどは利尿作用があるので、気づかないうちに体内の水分量はとても少なくなってしまいます。すると血液はドロドロになり細胞へ酸素を供給できず、新陳代謝が悪くなってしまいます。せっかく食べた栄養もうまく消化吸収できず、体は弱り風邪をひきやすくなってしまいます。他にも代謝が悪くなることで肌や髪など美容にも悪いことが起こります。そうならないよう冬でもきちんと水分を摂りましょう。風邪をひいてしまう様々な要因に対して、当たり前なことでも意識して対策するのはしないのでは、全然違います。ちょっとしたことでも実行して元気に応援しましょう。【本多里菜】

シード権獲得ならず(13位)も4区・菅が区間賞

第49回全日本大学対校選手権大会は10月5日、名古屋市東区神宮寺(三重・伊勢伊勢神宮)での8区間(0.6・8)で行われた。3年ぶり6度目の出場となった男子駅伝は5時間59分13秒で、6位までのシード権の獲得はなかった。4区の菅真大(経営)は写真の区間賞の走りもあって、10位を順位を上げた。



↑上級生の意地を見せた。40分9秒は区間歴代6位、日本歴代3位の好記録だった。5区、山本達也(経営)が区間7位、6区・大石巧(経営)が区間9位と粘りを見て、6、7区の中継では10位をキープしたが、順位を守れなかった。

菅は「1区区間が流れに乗っていい中で、橋本監督から流れを要を交わらせてほしい」と言ってもいいが、最初から積極的に行こう走りかけた。区間賞は「箱根伝に向けての自信になった」と話した。

全日本大学駅伝 歴代6位(日本人歴代3位)の好記録

第49回全日本大学対校選手権大会は10月5日、名古屋市東区神宮寺(三重・伊勢伊勢神宮)での8区間(0.6・8)で行われた。3年ぶり6度目の出場となった男子駅伝は5時間59分13秒で、6位までのシード権の獲得はなかった。4区の菅真大(経営)は写真の区間賞の走りもあって、10位を順位を上げた。



↑上級生の意地を見せた。40分9秒は区間歴代6位、日本歴代3位の好記録だった。5区、山本達也(経営)が区間7位、6区・大石巧(経営)が区間9位と粘りを見て、6、7区の中継では10位をキープしたが、順位を守れなかった。

また、「本期待の選手」として卒業の陸上長距離の村上悠太郎(旭化成)、「早通」と堀井浩志(選手、住友電)に加え、同400メートルの報知(旭化成)と渡部明(経営)の現役選手合わせて5人に対する城西大学スポーツ新聞の学生記者によるインタビューもハナレしている。写真もハナレしている。写真もハナレしている。

寂寥感と達成感と

さまざまな立場で陸上競技にかかわった4年4年間だった。入学当初に思い描いていた未来ではなかったけれど、この4年間に悔いはない。「城西大学スポーツ」(Jスポ)に入ったことで、深くかかわることができたのも多かった。いつしかJスポの活動が自分のやりがい、生き甲斐、そして誇りになった。偉大な先輩たちのような記者ではなかったかもしれない。それでも写真や原稿に込めた想いは人一倍強かったと思う。頑張っている人がいることを多くの人に伝えたい、知ってほしい……。そう思いながら駆け抜けた日々だった。

ひとむきに競技に取り組む選手やそれをサポートするマネージャーの姿。それを伝えられるのは私しかないと思った。だから頑張った。一人では絶対に途中で挫けていたと思う。たくさんの人に支えられてきたから、ここまで来ることができた。平凡な大学生活に色を添えてくれた大きなものが終わる。心にぽっかりと穴が空いたようなそんな気持ちで今、抱いている。それと同時になんとも言えないこの達成感。私はきつとやりきったのだと思う。

Jスポの未来を担う後輩たちに伝えたいのは「全力で向き合ってほしい」ということ。誰もを経験できることではないこの貴重な日々を思いっきり楽しんでほしい。そしてつなげてほしい。

多くの皆様、マネージャーさん、選手のみならず、そして千葉佳裕先生、本当にありがとうございました。春からはまた新たな舞台で私らしく頑張っていこうと思う。きつとこの経験がどこかで必ず活きて信じて。【高藤麗美】

記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験がある職員が取材・書き方を基本から指導します。興味がある学生、やる気がある学生、大歓迎です。写真、イラスト、漫画などでも協力してくれる学生もぜひ参加してください。

連絡はこちらまで
j-sports@josai.ac.jp

第94回箱根駅伝



選手たちに大きな声援を!

本戦でも 歓喜を再び!!

予選会の歓喜を再び——。城西大学男子駅伝部は正月2、3日に行われる第94回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)に2年ぶり14回目の出場を果たした。連続出場が途絶えてから1年、再び箱根路への切符を手にした選手たちは予選会で喜びを爆発させた。本戦でも選手たちの笑顔が見たい。シード権奪還・過去最高の5位入賞を目指し、箱根路を駆け回る選手たちに大きな声援を送ろう。

中面にメンバー紹介

シード権&過去最高位を目指し2年ぶりの箱根路

今年度は絶対的エースのいない中で全日本大学駅伝の予選会、箱根駅伝の予選会を勝ち抜いてきた。力のあふれる選手が揃った。偉大な先輩たちのような記者ではなかったかもしれない。それでも写真や原稿に込めた想いは人一倍強かったと思う。頑張っている人がいることを多くの人に伝えたい、知ってほしい……。そう思いながら駆け抜けた日々だった。

ひとむきに競技に取り組む選手やそれをサポートするマネージャーの姿。それを伝えられるのは私しかないと思った。だから頑張った。一人では絶対に途中で挫けていたと思う。たくさんの人に支えられてきたから、ここまで来ることができた。平凡な大学生活に色を添えてくれた大きなものが終わる。心にぽっかりと穴が空いたようなそんな気持ちで今、抱いている。それと同時になんとも言えないこの達成感。私はきつとやりきったのだと思う。

Jスポの未来を担う後輩たちに伝えたいのは「全力で向き合ってほしい」ということ。誰もを経験できることではないこの貴重な日々を思いっきり楽しんでほしい。そしてつなげてほしい。

多くの皆様、マネージャーさん、選手のみならず、そして千葉佳裕先生、本当にありがとうございました。春からはまた新たな舞台で私らしく頑張っていこうと思う。きつとこの経験がどこかで必ず活きて信じて。【高藤麗美】



▲2年ぶり14回目の箱根駅伝に臨む男子駅伝部

城西大学 Sports 箱根駅伝特集号

2017年12月vol.31

城西大学の題字は創立者・水田三喜男先生
発行所：〒530-0295 埼玉県板橋区水田1-1-1 城西大学

箱根駅伝出場おめでとうございます

白幡 晶 学長

男子駅伝部の皆さん。箱根駅伝出場おめでとうございます。

混沌とした世の中であるからこそ、常に自らの殻を破る挑戦は大きな意味を持ちます。部員全員が挑戦を続ける努力がなければ、チームとしての成果は現れなかったのではないかと思います。みなさん選手の1年間にわたる努力の結果としての2年ぶりの箱根駅伝出場に、卒業生、在校生、教職員一同、大きく勇気づけられていることを忘れないでください。そして、挑戦しつづける人だけが味わえる充実感を、学生時代に存分に味わえる選手の皆さんは、箱根駅伝の走りを通して、仲間たちに挑戦の意味を示してください。

地域の皆さんとともに、みなさんを応援したいと思います。

頑張ってください。

歴代成績

| | | |
|------|---------|------------|
| 第80回 | 総合 19 位 | 11時間42分15秒 |
| 第81回 | 総合 15 位 | 11時間22分49秒 |
| 第82回 | 総合 11 位 | 11時間16分10秒 |
| 第83回 | 総合 11 位 | 11時間20分50秒 |
| 第84回 | 総合 11 位 | 11時間20分19秒 |
| 第85回 | 途中棄権 | |
| 第86回 | 総合 6 位 | 11時間17分53秒 |
| 第87回 | 総合 11 位 | 11時間13分26秒 |
| 第88回 | 総合 6 位 | 11時間10分17秒 |
| 第89回 | 途中棄権 | |
| 第90回 | 総合 19 位 | 11時間25分42秒 |
| 第91回 | 総合 7 位 | 11時間8分15秒 |
| 第92回 | 総合 12 位 | 11時間20分6秒 |

予選突破が決まり歓喜に沸く選手たち

主将に聞く 中倉 優也主将

皆さんを驚かさず走り全員で!

主将の中倉優也(経営4)にチームの近況や意気込みを聞いた。【聞き手・高藤麗美】

——チームの状態はどうか。
全日本大学駅伝(13位)で今のままだと戦えないということがわかり、全員が危機感を持って練習に取り組んでいます。

——意気込みを聞かせてください。
今年はいい流れできているので、全員に期待してほしいです。

——注目選手はだれですか。
菅真大(経営4)。全日本大学駅伝での走りをもう一度みたい。

——最後にメッセージをお願いします。
応援してくれている皆さんを驚かさず走り全員で!

折り返し地点 箱根・芦ノ湖

第5区 小田原～箱根・芦ノ湖 20.8km



コト大坂の山を走るコース

天下の剣へ 急坂を13%駆け上り往路ゴールに向かう

天下の険とされた箱根の山。国道1号線の最高峰の標高874mにまでを一気に駆け上がる。2017年からそれまでの全区間最長の23.2%から2.4%短縮された。過去、歴史の11の神を生み、「5区を制するものは箱根を制する」とまで言われたが、最長区間の歴史は11年で終了した。その理由について、関東学生陸上競技連盟は、「5区の選手に対する生理学的負担が大きい。総合成績に対する貢献度も大きい」と説明している。距離は短縮されたが、それでも最大の難所であり、重要度は変わらない。箱根駅伝付近が本格的な山が始まり、ここから約13%の急坂を上る。この間、山の中を走るため、木々に覆われ日差しはあまりない。16.2%の最高地点を過ぎると19%、過ぎに箱根神社大馬場まで一転して下りに入る。ここでの走り切り替えが往路のゴールに向けた一つ一つの大きなポイントになる。

第4区 平塚～小田原 20.9km

海風とアップダウンが選手を苦しめる 往路終盤への重要区間



2006年から2016年までは18.5%で、最も短い区間だったが、2017年からは中継所が再び、鈴鹿前と海岸線に別れるを告げるが、それでも海からは近く風の影響を受けやすい。箱根アップダウンが多く、選手を苦しめる。終盤、小田原市内へ入ると道幅が広くなり、目の届かない自分のペースを見失うこともある。現れたには、選手の前方に富士山の雄大な姿を望むことができる。かつての距離短縮がマラソンに順応できる選手の育成にマイナスとの指摘もあつて距離が再び延長された4区。往路の終盤に向けて5区に良い位置でつづく重要な区間となった。

旧東海道を走るコースは、かつては江戸時代から続く。現在は、海風が吹く山を走るコースとなっている。

第3区 戸塚～平塚 21.4km

湘南の海風と砂が襲う

箱根駅伝の名物の一つである湘南の海を左に見ながら走るコース。序盤は下り坂だが、ここでのペース配分を間違えると後半が苦しくなる。11.9%で国道134号線に出ると、選手の前には富士山が見える。海からの風がひどく強い年は、選手からつきながら走る場面も。砂防林のある海岸線が風に乗って砂が飛んできて、目を開けられないことも。後半はアップダウンの少ないコースだが、風という見えにくい敵が選手を襲う可能性がある。かつては1年生の起用が目立っていた3区だが、前半型オーダーを組む大学が増えたことで主力級の選手の起用が多くなっている。

第2区 鶴見～戸塚 23.1km

エースも苦しむ二つの坂



花の2区と呼ばれる各校エースが配される区間。平地区間では最も長い23.1%で、二つの厳しい上り坂がある。一つは14%、過ぎにある有名な「権太坂」。左右にカーブしながら約20%を上る。実際に現地にいった学生記者は「自転車で上ったがきつかった」と話す。もう一つは、コース終盤の20%過ぎから戸塚中継所までの約3%に及ぶ「戸塚の壁」とも呼ばれる坂。「権太坂よりこの坂の方がつらい」と話す選手もいる。特にラスト800mの急な坂で苦しむ。各校エースでさえ2区での「二つの坂」の攻略は簡単にはいかない。また、2区ではエースによる「こぼれ抜き」も多く見られる。

第1区 大手町～鶴見 21.3km

出遅れし上位を狙え!

1区のコースは全体的にフラット。目立ったアップダウンは7.8%付近の八ツ山峠と18%付近の六甲峠のみ。そのため近年はハイペースになることが多く、1区から差が大きくなることもある。最近では各校エース級の選手が1区に集結、ハイレベルなレース展開となっている。「流石」が大切な駅伝で1区での出遅れが大きいと後の区間で苦戦を強いられるため、できる上位で陣を渡したい。



コースが目の前にある保土ヶ谷駅前のマンホールも駅伝仕様になっている

コース説明



スタート地点 大手町 往路 1～5区 107.5km

男子駅伝部

名前 学部学年/出身高校 (1) どんな走りを (2) マイブーム (3) 勝負メン 熱い声援を! メンバー紹介



菅 真大 (経営4) 松山工業・愛媛 (1) 後半にかけてしっかりとペースを刻んで行けるように心掛けたい (2) 特になし (3) カレーラーメン



酒井 雅喜 (経営4) 佐久長聖・長野 (1) 4年間支えてくれた人に感謝の気持ちを入れていきます (2) 洋楽 (3) ご飯



中舎 優也 (経営4) 伊賀白鳳・三重 (1) 楽しんでもらえる走り!! (2) KEYTALK (3) 蕎麦



山本 竜也 (経営4) 法石法石川・福島 (1) 4年間の集大成として自分の大学での路上生活すべてを込めていきたい (2) ちゃんみなを聴くこと (3) すしさんまい、焼肉



大石 巧 (経営4) 袋井・静岡 (1) 大手町のゴールで全員が突って終わる走り (2) Amazon Prime Video でビデオ鑑賞 (3) 暖暖のスタミナ丼



金子 元気 (経営3) 坂戸西・埼玉 (1) 他大学のエースに負けない走り (2) 美味しいものを食べに行く、モンスターストライク (3) 昼:スタミナ丼一食、餅入りうどん



鈴木 勝彦 (経営3) 二本松工業・福島 (1) 1月の寒さを暑さに変えるくらい、見てくれる人全員に熱のこもった走りを見せる (2) 寝る前のストレッチ、三浦大知の曲を聴く (3) 卵とベーコンのほうろひ草炒め



中島 公平 (経営3) 水城・茨城 (1) 応援してくれる人がワクワクするような走りをする (2) 土曜の唄を聴く (3) 日曜屋のレバニラ定食



岐下 拓斗 (経営3) 中京・岐阜 (1) どの区間を走ってもチームに貢献し見ている人にも勇気を与えること (2) 同期の鈴木勝彦を毎日いじること (3) 暖暖のスタミナ丼



小野 正人 男子駅伝部部長



榎部 静二 男子駅伝部監督



服部 潤哉 (経営3) 中京大学附属中京・愛知 (1) 区間賞をとる (2) YouTube を見る (3) 暖暖季のご飯



荻久保 寛也 (経営2) 三郷工業技術・埼玉 (1) 突っ込んで粘る走り (2) 読書 (3) 二代目蝦夷の焼肉丼



中原 佑仁 (経営2) 市立船橋・千葉 (1) 家族や祖父母、応援してくれたいる方々に感謝を伝えられる走り (2) 音楽を聴きながら散歩 (3) 二代目蝦夷の焼肉丼



西嶋 雄伸 (経営2) 名古屋経済大学高蔵・愛知 (1) みんなの記憶に残る走り! (2) 音楽を聴くのが好きです (3) リポビタンPフル



宮澤 真太 (経営2) 十日町・新潟 (1) チームに貢献する走り (2) 学校に行く (3) 寮飯



菊地 駿弥 (経営1) 作新学院・栃木 (1) チームに貢献する走り (2) 映画鑑賞 (3) スタミナ丼



雲井 峻太 (経営1) 西京・山口 (1) チームに貢献する走り (2) プロ野球の応援歌の動画を見ることが好き (3) 特になし



菅原 伊織 (経営1) 國學院大学久我山・東京 (1) 積極的なレース、区間賞 (2) 乃木坂 46 の写真集を見ることが好き (3) 肉料理、オレンジジュース、サラダチキン



野上 亮祐 (経営1) 中京大学附属中京・愛知 (1) 積極的な走り、チームに勢いをつけるような走り (2) 練習後に午後の紅茶を飲む (3) お米、卵かけご飯



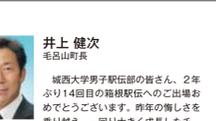
石川 清 坂戸市長・坂戸市民応援団団長



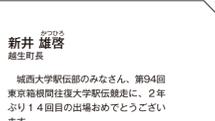
齊藤 芳久 鶴ヶ島市長



谷ヶ崎 昭雄 日高市長



井上 健次 毛田町長



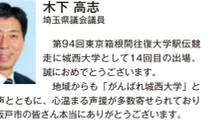
新井 隆啓 越前市長



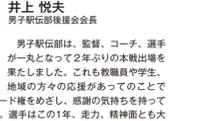
鈴木 文雄 同窓会会長



高橋 一美 父後援会会長



木下 高志 男子駅伝部後援会会長

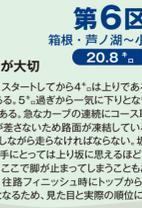


井上 悦夫 男子駅伝部後援会会長

わたしたちも応援します

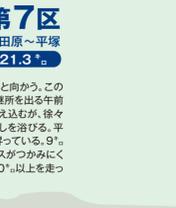
箱根・芦ノ湖 折り返し地点

第6区 箱根・芦ノ湖～小田原 20.8km



第7区 小田原～平塚 21.3km

細かいアップダウン



箱根の山に別れを告げ、選手は海岸線へ向かう。この7区は最も気温差が大きい区間。小田原中継所を出る直前に9時前後は霧雨からの冷たい風の影響で冷え込む。平塚中継所が近づくと気温は再び上昇する。平塚中継所を過ぎると、注意しなければならない。坂が緩やかになるラスト3%は、急坂を下ってきた選手にとっては上り坂に思えるほど苦しくなる。アリアオーパーペースになり、ここでペースが止まってしまうこともあるため、ペースコントロールが必要となる。また、往路フィニッシュ時にトップから10分以上差がついたチームは復路一斉スタートとなるため、見た目と実際の順位に違いが生まれてくる。



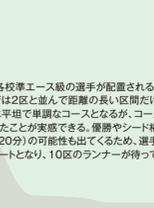
第8区 平塚～戸塚 21.4km

しぶとい「遊行寺の坂」

右手に海を、後ろに富士山を背負いながら走る8区。7区と同様、選手の前には富士山が見える。前半はフラットな海岸線だが、海が離れて15.9%過ぎになると、遊行寺の坂は箱根駅伝のコースの中でも有名な、箱根の山を思わせるような上り坂のため、前半にペースを上げすぎるとこの坂で苦しむことになる。遊行寺の坂を上りきったあとしばらく平坦なコースが続く。坂を抜くことができない。遊行寺にある大観音、時には風や雨が吹き抜ける観光客が訪れていた。

第9区 戸塚～鶴見 23.1km

逃げたい繰り返すスタート



花の2区逆のコースであるこの9区には、各校エース級の選手が配置される。序盤は下り坂のためオーバーペースになりやすいが、平地区間では2区と並んで距離の長い区間だけに、ここですべての力をこめて走ることが多い。11%過ぎからは平地で難関なコースとなるが、コース後半はみなと通りのビル群が見え、いよいよ都内が近づいてきたことが実感できる。復路やスタート権争いが熱くなる中、繰り返すスタート(トップが通過してから20%)の可能性が出てくるため、選手はトップとのタイム差を気にしながら走る。繰り返すスタートとなり、10区のランナーが待っている鶴見中継所で涙を流すシーンが多く見られる。

第10区 鶴見～大手町 23.0km

白熱! シード権争い

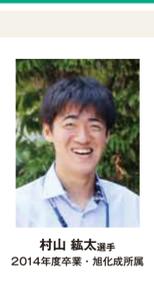


長丁場の箱根駅伝も10区で総仕上げ。コースはフラットでそれほど難しくなく、距離が長いので堅実な走りが必要となる。また、コース後半に入ると風が吹く選手は影響を受けやすい。10区では特にスタート権争いが白熱する。直線コースが多いため前方を走る選手が見え、少しでも差を縮めたいと集りも生まれる。過去には10区と3秒差でシード権を争ったという大学も、復路の酷暑、シード権争いの喧嘩、敗北の無念、さまざまな表情がフィニッシュの大手町で見られる。

復路 6～10区 109.6km

スタート地点 大手町

私の箱根駅伝



村山 敏太選手 2014年度卒業・旭化成所属

結果よりも全力で走る姿を

—あなたにとって箱根駅伝とは、仲間と一緒にシード権を勝ち取った思い出のある駅伝。—本戦前、健康面や生活面などで気をつけていたことは、普段通りに生活することを心がける。手洗いうがいを徹底する。

—箱根駅伝の経験が今の実業団でどのようにつながっているか、応援者が増える。—後輩たちに一言、結果よりも全力で走る姿を見ています。頑張ってください。



西岡 喬介選手 2015年度卒業・中電工所属

—4年間を振り返って、今振り返ると、長かったよう短かったような4年間でした。楽しいことばかりではなかったですが、箱根駅伝に大学生活すべてをかける経験が出来たことは

諦めず打ち込めば結果がついてくる

私にとってかけがえのないものとなりました。—箱根駅伝とは、私にとっての箱根駅伝とは青春です。学生の時にしか味わえない夢と感動を与えられる舞台だと思います。—箱根駅伝を走っている時に考えていたこと、力にしていたこと、3年目、4年目にも感じたことは、自分の結果よりもチームの結果を思って走ったことです。区間10位以内を目標にはし

ていましたが、一番に考えていたのは、控えている選手と応援してくれているチームメイトでした。結果は残せませんでした。が、全力を尽くせたのはあの時一緒に戦ってくれたチームメイトたちでした。—後輩たちに一言、城西大学は本当に恵まれた環境で陸上に取り組める場所だと思います。諦めず打ち込めばそれに見合う結果がついてくると思います。是非とも悔いのないよう頑張ってください。応援しています。